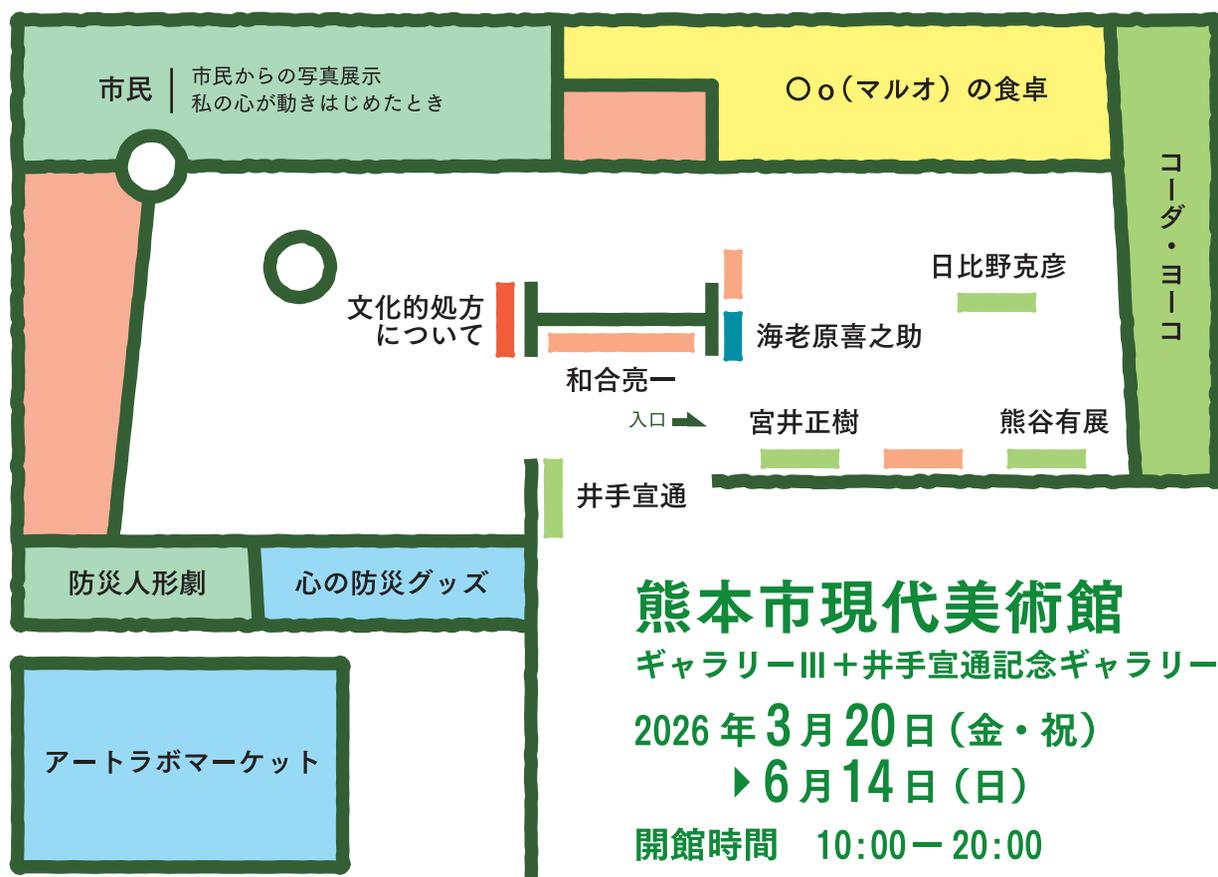


熊本地震と文化的処方

— 私の心が動きはじめるとき —



熊本市現代美術館

ギャラリーIII+井手宣通記念ギャラリー

2026年3月20日(金・祝)

▶6月14日(日)

開館時間 10:00—20:00

火曜休館

*ただし5月5日(火・祝)は開館し、5月7日(木)休館

出品作家

写真やエピソードを応募されたみなさん

井手宣通 海老原喜之助 熊谷有展 コーダ・ヨーコ

日比野克彦 丸尾三兄弟(金澤佑哉・宏紀・尚宜)

宮井正樹 和合亮一

熊本市職員向け研修プログラム Diversity on the Arts Project

主催：熊本市

企画監修：田中一平(熊本大学特任講師)・公益財団法人熊本市美術文化振興財団

企画協力：せんだいメディアテーク

入場
無料

熊本地震と文化的処方

— 私の心が動きはじめるとき —

10年前の平成28年、熊本地震が発災しました。ライフラインは麻痺し、被災地では復旧作業が続きました。数千回にもおよぶ余震の中、私たちの心はくたくたで、一日一日を淡々と、ただなんとか乗り切っていました。それでも、被災後も延々と続いていく日常の中で「これがあったから乗り越えられた」「あれを体験したことがきっかけだった」など、少し前を向いて考えられるようになったり、気がつくとき笑顔が浮かんだり、心が動きはじめたと感じる瞬間がいくつもありました。私たちは知らず知らずのうちに、美しいモノや心が動くような創造的なコトとの出会い、ヒトの優しさや笑顔といった本来身近にある価値を自分に処方していたのではないのでしょうか。

昨年4月、熊本市、熊本大学、東京藝術大学、熊本市現代美術館は、モノ・コト・ヒトが本来持っている価値を楽しめるようになることで、一人ひとりのウェルビーイングが高まることを実証・実装するため、熊本版文化的処方の研究開発をはじめました。

今回、震災から10年を迎えるのを機に、私たちがあの時、日常の中で何と触れ、何を感じることで日々を乗り越えてきたのかを、改めて皆さんと一緒に考えてみたいと思います。そして、私たちの経験が、未来の誰かが災害を乗り越えていくヒントになればと願っています。

熊本版文化的処方とは

文化的処方とは、文化活動を「健康に欠かせない要素」ととらえ、望まない孤独や孤立を遠ざけ、健やかな生活を支える考え方であり、実践の仕組みです。

熊本では、今まで意識してこなかったモノ・コト・ヒトが持つ多様性や奥深さといった価値に気づき、それらを楽しむことによって、市民一人ひとりが自らのウェルビーイング（心身の健康や社会的な充足感が満たされた状態）を高めることができるようになること、社会的にはウェルビーイングな人が増えることによって、寛容性や包摂性の高いまちとなることを目指しています。



熊谷有展《Rise again -the sun also rises-》2016年



宮井正樹《Untitled》2016年



コーダ・ヨーコ《どうぶつたちもこわかった（部分）》2022年



イベント情報の詳細や申し込み方法は
熊本市現代美術館HPをご確認ください

drsign by acre

CAMK 熊本市現代美術館
CONTEMPORARY ART MUSEUM, KUMAMOTO

〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3 びぶれす熊日会館3F
TEL. 096-278-7500 www.camk.jp

*熊本市現代美術館は交通アクセスのよい熊本市街地中心部にありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。
*美術館専用の駐車場はございません。びぶれす熊日会館駐車場（有料）や周辺のコインパーキングをご利用ください。